



校訓 「自立 協同 創造」
校是 「生きるとは 分かちあうこと」

養父市立養父中学校 学校だより
(令和7年6月30日) 第13号

学校教育目標「しなやかな強さをもち 協働的・創造的に活動できる生徒の育成」

6月の生徒集会

6月16日(月)の生徒集会で以下の表彰伝達を行いました。

◆但馬中学校総合体育大会陸上競技大会

共通女子円盤投げ 第1位 23m90cm

共通女子砲丸投げ 第3位 8m12cm

3年 男子100m 第3位 11秒35

2年 女子100m 第3位 14秒08

共通男子走り高跳び 第3位 1m50cm

◆播但中学校親善野球大会(野球部) 準優勝

◆養父市中学校交流大会(野球部) 優勝

◆全但中学校ソフトボール選手権大会(ソフトボール部) 準優勝 ※八鹿青溪中学校との合同チーム

◆ジュニアはばたんカップ(ソフトボール部) 第3位 ※八鹿青溪中学校との合同チーム

◆ONION バasketボール交流試合(Basketボール部) 優勝

◆HYOGO SOUTH CUP(Basketボール部) 優勝

◆養父市中学校夏季バレーボール大会(バレーボール部) 準優勝



第1回6年生登校

6月17日(火)、養父校区小中一貫教育の一環として「第1回6年生登校」を実施しました。「おはようございます!」と元気に登校してきた37名の児童は、まずは“養父中名物”の朝活動「聴くトレ」にチャレンジしました。その後、①学活「自己紹介」②学活「中学校生活について」③国語④学活と午前中に授業が流れていきました。特に②学活「中学校生活について」は3年生の生徒会役員が運営してくれて、中学生と小学生の良き交流になりました。給食をはさんで、⑤理科⑥ふりかえり・部活動見学等の午後の活動を行い、16:00に下校していきました。6年生登校は小学校から中学校へのスムーズな進学を支援するもので、年間に3回計画しています。早くも第2回目(10月)が楽しみです。



さて、養父校区では、「ふるさととつながり、仲間とともに“在りたい未来”を創造する児童生徒の育成」という共通の目標を掲げて小・中学校が日々の教育活動を展開しています。また養父市ではめざす児童・生徒の姿として、以下の「養父市のめざす子ども像『15歳の姿』」を設定して、小中一貫教育に取り組んでいます。

- 勤労を尊び、夢や目標をもって、誠実に粘り強く取り組む子
- 課題の発見。解決に向け、自ら学び、考え、高め合い支え合う子
- ふるさと養父市の未来を見据え、地域に主体的に参画しようとする子

鳥のさえずりに驚いたあの朝

もう20年以上も前の冬のことです。仕事に明け暮れていた生活の中でなんとか3日間の時間を捻出し、ひとり旅に出かけたことがあります。特に行き先は決めずに八鹿駅から電車に乗り込み、たどり着いた地は長野県の上田市（江戸時代に出石藩主松平氏と上田藩主の仙石氏がお国替えとなる。出石そばの起源は上田市にあるとされる）。その上田市の郊外にある別所温泉という静かな温泉場で1日目の夜を過ごすことにしました。遅い時刻に着きましたが、なんとか夕食を用意していただくことができ、また、翌日は、早朝より朝風呂にも入らせていただき、安価でありながらもたいへん親切丁寧な宿であったと今でもよく覚えています。

なにしろ電車の旅、しかもほとんどが各駅停車の旅ですから、足早に次の出発をしないことには3日間で但馬に帰ってくることができません。まだ薄暗がりの朝6時頃に後ろ髪引かれるようにその宿を出発して、別所温泉駅までの道のりを歩きました。東の空がどんどんと明るくなっていく中で、私の耳に鳥の「チュンチュン、チュンチュン・・・」というさえずりが飛び込んできました。なんだかずいぶん久しぶりに聞くような気がして胸がどんとどんと高鳴っていきます。なんでこんな些細なことに心が揺さぶられるのだらうと思いながら歩いているうちにあることに気がつきました。「そうだ、私はいつも車ばかり使っていて、ろくに自分の足で道を歩いていなかった」と。つまり、鳥がさえずるといごくありふれた日常に全く気がつくこともなく、毎日車を運転しながらカーステレオの音ばかり聞いていたということなのです。

さらに、もう少しそのまま歩を進ませると、今度は「ピュー、ピュー・・・」という風の音も耳に入ってきます。そして、冬の冷たい空気が私の頬をなでます。また、別所温泉駅の近くでは、何人かのご高齢の方が、「おはようございます」というあいさつをしてくれます。こんなゆきずりの旅人に対してでも丁寧に頭を下げてくださいる方の姿に恐縮して、おもわず背筋が伸びてしまいました。いずれも車で移動している限り得ることのない“感覚”です。「このように、時には自分の足で道を歩いてみるということはとても大切なことではないのか」「人の感性とはこのような環境の中で育まれるものではないのか」などと自問自答しながら、別所温泉駅からの始発電車に乗り込み、今度は群馬県境にまたがる碓氷（うすい）峠をめざしました。

あれからかなりの年月が経過しました。令和2年度からは香住小学校の校門で、令和5年度からは八鹿青溪中学校の校門で、そして今年度からは養父中学校の校門で、毎朝登校してくる児童生徒を迎えてきましたが、鳥のさえずりや風の音、そして地域の方の心に触れながら学校へ向かって歩いてくる生徒たちの姿を見て、このありふれた日常からどんなことを感じてくれているのだらうと思いを巡らすことがあります。鳥のさえずりに驚いたあの朝を思い起こしながら。



長野県上田市の別所温泉駅



香住小学校



八鹿青溪中学校



養父中学校